

# 地域医療を守る医師たち

— 市民病院の専門医師 内科編 —



市民病院の診療科の中で、患者が最も多いのは内科です。内科といってもその診療の幅はとても広いので、市民病院では内科の各分野に専門医師を配置しています。内科医師は常勤医師16人と非常勤医師17人で、西三河南部の地域医療を守るため、日々の診療に当たっています。

今号では、市民病院の内科に焦点を当て、それぞれの専門医師と診療内容などを紹介します。

## 問合先

市民病院内科外来 (☎ 56・3171)

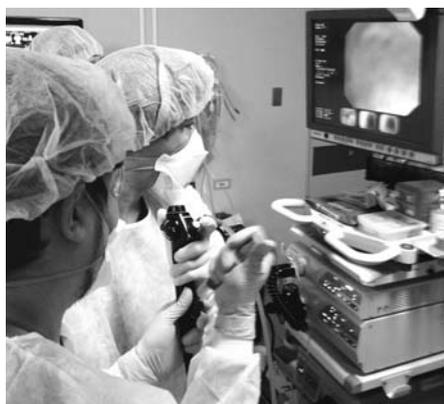
市民病院の内科は、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、内分泌内科、血液内科、女性内科外来、膠原病内科、腎臓内科に分かれ、それぞれの専門医師が診療を行っています。

市民病院の内科は、日本内科学会が認定する教育病院の一つになっています。そのため、内科医師は日々の診療以外にも、認定更新のための学会発表や臨床病理検討会など、教育病院としての役割を果たすため、努力しています。また、医師はそれぞれの分野の専門診療のほか、当番で時間内・外の診療、救急診療にも対応しています。診察予約なしで、午前11時の受け付けを過ぎて受診する場合は、当番の医師が対応することになるため、必ずしも専門医師が対応できるとは限りません。

現在、国は病院の機能分担を政策として進めています。具体的には、「まずは、かかりつけ医を受診する」です。これは、市民病院のように二

次救急を担う病院では、外来の負担軽減につながります。一次救急（かかりつけ医）である西尾幡豆医師会の医師とは、勉強会などで日ごろから理解を深めるように努めています。市民の皆さんへの医療の提供は、市民病院だけではなく、かかりつけ医との連携の中で築きあげていくものです。

まずは、市民病院の内科には、どのような分野があるかを理解していただければと思います。

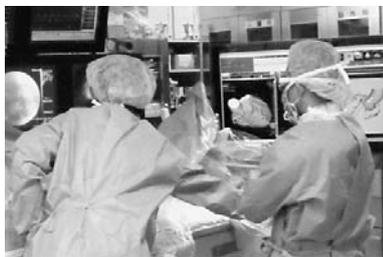


▲気管支鏡検査の様子

## 突然死に至ることもある心疾患。症状があれば、早めの受診を！

心臓の疾患は、検査や治療において、入院が必要であったり、身体にカテーテルなどを挿入する手技が必要となったりすることが多いため、できるだけ分かりやすい言葉で丁寧に説明することを心がけています。

▶カテーテル治療の様子



循環器内科は、主に心臓や血管の病気を専門とする診療科です。対象となる疾患は、狭心症や心筋梗塞、不整脈、心不全などです。動脈硬化を促進する糖尿病や高脂血症、脳梗塞なども、関連疾患として同時に診察することがあります。胸痛、胸の圧迫感、動悸、息切れ、むくみなどの症状がありましたら、循環器内科の診療をお勧めします。

循環器の疾患は、喫煙や食事、運動、飲酒、肥満など、生活習慣との関係がとても深いです。治療には薬だけでなく、生活習慣の改善も重要です。

# Doctor

## 循環器内科部長

### 田中俊郎



## 肺炎や肺がんなど、高齢者に多い疾患を診療します

# 呼吸器内科部長

## 大野城二



呼吸器内科は、肺や気管支などの呼吸器系の疾患を扱う診療科です。急に発熱して咳・痰が出る、長引く咳、夜間に咳で眠れない、息切れ、血痰が出る、胸痛など呼吸器の症状がある場合には、受診してください。疾患として、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、肺がん、誤嚥性肺炎などがあり、近年増加傾向で特に高齢の方に、とても多い病気です。症状がほとんどないこともあり、診断が遅れる原因の一つにもなっています。

また、たばこが原因の疾患も多いため、特に喫煙者で少しでも気になる症状があれば、早めの受診をお勧めします。



◀喫煙者は肺疾患になるリスクが高くなるので、たばこの吸い過ぎに注意しましょう。

## 内視鏡検査は機械・技術の進歩で、痛みも少なく短時間で行います

# 消化器内科部長

## 長谷川太作



消化器内科は、胃、大腸などの消化管や肝臓、膵臓、胆道などの臓器の病気を担当する診療科です。症状は腹痛や嘔吐、下痢、全身倦怠感、黄疸、食欲不振、貧血、体重減少などさまざまです。最近では、ストレス社会の中で胃潰瘍や十二指腸潰瘍に悩む方が増えています。消化性潰瘍の原因としては、ピロリ菌感染の可能性もあります。その場合の検査は、内視鏡検査をお勧めします。ファイバースコープの管も細くなり、痛みはかなり少なくなっています。

また、食生活の欧米化により、大腸がんを発症する方が増えています。検診などで便潜血反応が陽性と言われた方は、大腸内視鏡検査をお勧めします。機械・技術の進歩で、通常10～20分程度で、痛みも少なく検査ができます。さらに、C型肝炎などの肝臓病も問題となっていますが、治療法の進歩により、C型肝炎の治癒率も向上しています。

まひ  
心臓麻痺・脳梗塞・認知症の予防の決め手は、まず良い血糖値

## 内分泌内科医師 Doctor 戸谷有二



内分泌内科は、体の中のホルモンの異常によって起こる病気の診断と治療を行う診療科です。

健康診断や検診で尿に糖が出ていると言われたら、糖尿病の可能性があります。糖尿病は症状のないうちに治療を行い、

上手にコントロールできれば決して怖い病気ではありません。しかし、治療をせずに放置すると、網膜症（視力障害）や腎症（腎不全）、神経障害などの合併症を引き起こす可能性があります。

頸部（首の部分）に腫れがある場合は、甲状腺の病気の可能性があります。甲状腺はホルモンをつくる臓器の1つですが、日本人はこの病気を発症しやすい体質といわれています。

このほか、さまざまなホルモンの病気や高脂血症などの代謝障害も相談に応じますので、気になる症状がある方は受診してください。

脳卒中は時間との勝負。疑われる症状が出たら、すぐ受診を！

## 神経内科医長 Doctor 櫻澤誠



神経内科は、脳や脊髄、筋肉、末梢神経などの病気を診療する科です。代表的な病気には、脳卒中やパーキンソン病、アルツハイマー病、頭痛などがあります。

これらの病気によくある症状として、脳卒中は「ろれつが回らない」「片側の手足が動きにくい」「歩きにくい」「言葉が出ない」などで、パーキンソン病は「手足が震える」「前かがみで小刻みに歩いてしまう」「動作がゆっくり」などで、アルツハイマー病は「物忘れが激しい」「日付けが分からない」「家事やお金の管理、服薬管理ができない」などです。

当院では、頭部CT（コンピュータ断層撮影装置）や脳血管MRI（磁気共鳴撮影装置）などの検査が可能で、患者さんの病気や症状に合わせて検査を行い、診療に役立てています。

## 血液内科は白血球、赤血球、血小板という血球成分の異常を治療します

貧血でも、原因がはっきりしないときは、入院する必要がありませんが、ほとんどの場合は通院で検査、治療を行います。血球の病気の治療は、その時の血球の状態により決まります。診察の前に血液検査を行い、結果が出るまで1時間ほどかかります。



▲外来治療センター

血液内科は、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫、白血病、骨髄異形成症候群などの血液悪性疾患を中心に治療を行っています。ほとんどの抗がん剤の点滴治療は、当院の外来治療センターでの通院治療になりますが、副作用のチェックや安全に通院治療ができるかどうかの判断のために、1回目の治療だけは入院する必要があります。また、慢性骨髄性白血病は入院することなく、通院での内服治療だけで良好な状態を維持できます。

## 血液内科 Doctor 副院長 大林包幸



副院長  
大林包幸

## 女性の心と体を総合的に診断します。また、近日禁煙治療を行う禁煙外来を開設予定です

禁煙外来とは、たばこを止めたい方のための専門治療外来です。現在、たばこを吸うのを止められない方は、ニコチン依存症と診断される可能性があります。禁煙外来では、ニコチン依存症と診断を受けた患者さんに対して、禁煙補助薬を処方し、禁煙治療を行い、禁煙外来スタッフとともに、患者さんの禁煙をサポートします。現在は、禁煙治療が条件付きで保険適用になっています。なお、禁煙外来は月2回の診療で予約制です。

**禁煙外来を開設予定です（男女可）**  
女性によく起こる体の疲れや心の問題、この診療科に行けばいいのかわからない体調不良、不安や疑問などに答える女性専門の健康相談窓口です。女性はホルモンの働きも、かかりやすい病気も、心のあり方も男性とは異なります。女性が気楽に受診・相談できるように、診察・検査など全て女性スタッフが担当します。

Doctor

女性内科外来医長

都筑正美



## 不治の病といわれている膠原病。しかし、今では病気の進行を防ぐことができます

膠原病内科では、主に全身性エリテマトーデス（免疫異常で発病する炎症疾患）をはじめとする膠原病と、その類縁疾患の診断と治療を行います。具体的には関節が痛い、筋肉が痛い、熱が下がらない、動くとき息苦しい、眼や口が渇く、紅斑が出て痛い、手足がしびれるなどです。これらの症状が1つだけではなく、いくつも次々と起こる場合には膠原病が疑われますので、早めの診察をお勧めします。なお、当科は、紹介患者のみを診察しますので、まずはかかりつけ医にご相談ください。

膠原病は、リウマチ性疾患、自己免疫疾患、結合組織疾患が重なりあった疾病をいいます。不治の病である印象が非常に強い病気ですが、最近の治療進歩によって、完治することはまだ難しいものの、ほとんどの膠原病に対して、その進行を阻止できるようになってきています。

Doctor

膠原病内科医師

吉田俊治

藤田保健衛生大学 リウマチ・感染症内科教授



## 病気が進んでも痛みを感じる事が少ない腎臓。定期的な健康診断が重要です

腎臓内科では、高血圧・糖尿病の進行により、尿をつくる力が衰えてきている状態です。その機能が破たんすれば、透析治療に頼ることになります。まずは利尿剤治療を行います。利尿剤治療に期待できなくなった場合は、透析治療を行います。以前に比べ、透析治療もかなり改良され「痛い」「苦しい」ということも少なくなってきました。

当院の腎臓内科は、非常勤医師で対応しているため、紹介患者のみを診察します。入院治療が必要・透析治療が望ましいと判断した場合には、他の病院の腎臓内科を紹介します。

腎臓内科で扱う病気には、タンパク尿や尿潜血が見られる腎炎と、腎臓の機能が低下している腎不全の2種類あります。腎炎は、早期発見・治療することで腎不全の発症を防ぐことになり、定期健診などで尿検査を受けることが重要です。

Doctor

腎臓内科医師

重本絵実

名古屋大学医学部附属病院 腎臓専門医

